

ISSN 0289-8144

な き ご え 1

JAN.

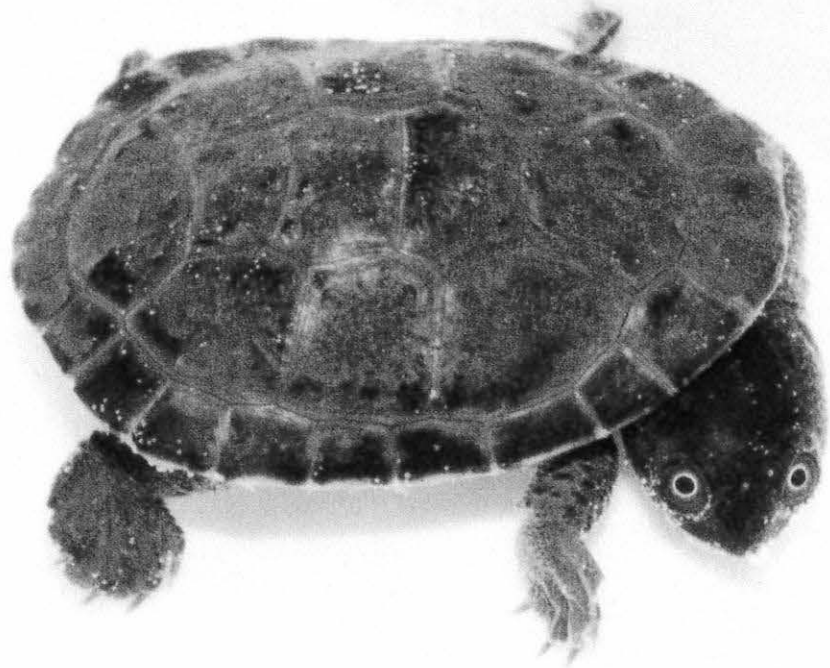
2000



CONTENTS

New Face	ニューギニアナガクビガメ	西村慶太	②
	動物とわたし	増田喜昭	③
カバーウォッチング	グリーンイグアナ	西村慶太	
	ドラゴンと龍	中川哲男	④
	龍を探せ!!	西村慶太	⑥
	グラフZOO 龍を探せ!!	西村慶太	⑧
	ケンちゃんの好きやねん動物園	松葉 健	⑩
	ZOO DIARY	高見一利	⑪
	ZOO INFO	坂本 全	
		松岡 秀和	

New Face



ニューギニアナガクビガメ

(カメ目 ヘビクビガメ科)

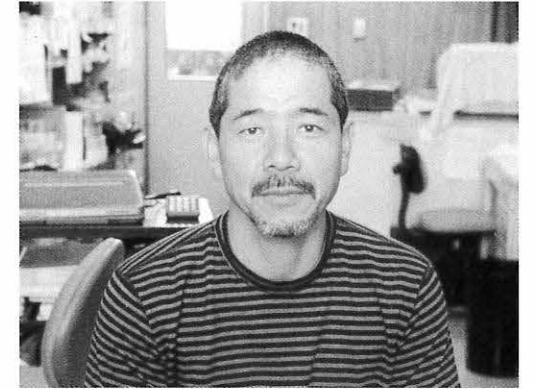
9月12日にフ化したナガクビガメの赤ちゃんです。元気に泳ぐ姿を爬虫類生態館アイファーにてご覧になれます。(撮影・文：西村慶太)

動物とわたし

-どうぶつエッセイ-

増田喜昭 さん

(子供の本専門店店主)



「ぞうさん」と遊んだぞう

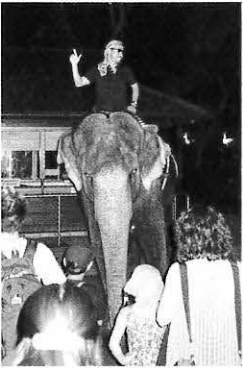
子どものころに「好きな動物は？」と聞かれると、いつも「ぞう」と答えていました。なぜぞうなのか、自分でもよくわからないのですが、「ぞうさん ぞうさん、おはながながいのね…」という歌が好きだったんです。「そーよ、かあさんもながいのよ…」のところはけっこう気に入っていたようです。くじらや恐竜も好きだったようです。とりあえず、大きな動物が好きだったのでしょう。同じ地球の同じ土の上にもいまぞうがいて歩いたり、うんこしたり「パオー」なんて鳴いたりしてるのかなと考えるだけでうれしくなります。

大人になって、スリランカという国へ行ったとき、材木を運んだりして働いてるぞうに会って感激しました。そのときに、ぞうにもいろんなぞうがいるんだってことに気付きました。みんな少しずつ顔や目や歩き方がちがうのです。そのやさしい目をうっとり眺めていたら、「乗せてやるよ」とぞうの上のっけてもらいました。すごくゆれて、こわか

ったのと頭の毛がちくちくしたのを憶えています。

昨年の夏、あべ弘士さん(元旭山動物園飼育係、現絵本作家)とシンガポールの動物園へ行ったとき、いっしょに来ていた子どもたちを驚かそうと、夜の動物園でぼくがハリマオ(昔のTVのヒーロー)になって象に乗って突然あらわれる、というのをやったのです。暗い中でサングラスをかけるともうまっ暗、それでもぼくは、ぼくより年上のメスの象さんに「よろしくおねがいます」とおねがいしつつ、ヨイショッと大きな耳をつかんで頭の上に乗りました。すごくこわかったけど、おしりから象さんのあったかい体温が伝わってきて、とても安心できました。子どもたちも大喜びで大成功だったのです。これも、あべ弘士さんのおかげだと感謝しています。

みなさん、動物園で働く人たちと友だちになりましょう！(ますだ よしあき)

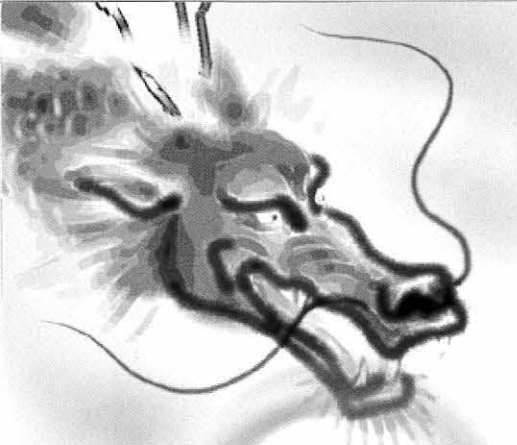


Cover Watching

グリーンイグアナ

ヘビ目 イグアナ科 Iguana iguana

干支(えと)の動物が表紙を飾る2000年1月号、悩んだ末選んだのがこのイグアナです。さあこのあと、どんな「龍」が出てくるのでしょうか。(撮影・文：西村慶太)



ドラゴンと龍

天王寺動物園長 中川哲男

西洋ではドラゴンは水や大地を支配する悪霊、悪魔であって河川、海、湖、野山、平地などを霊力で取り仕切っていると考えられていました。そのことから悪霊のドラゴンを退治することは水利や土地を治め、都市を建設し、農耕牧畜を開拓すること、あるいは外敵を排除することにつながっています。それがうかがえるのは海を治める海洋民族バイキングの船首の飾り、古代ローマ軍団の旗印、王家の紋章、教会絵画等に象徴されています。西洋ではドラゴンは恐怖の象徴で山の噴火、洪水、竜巻、嵐、外敵の侵入などすべてを悪霊のなせる仕業であると、王家や教会の権力者が流布扇蒙し、政策上宗教上これを利用し、市民を支配しました。

さて、龍はインドより東の東南アジア、東アジアに分布し、鱗を持つ動物の長であり、空中、地上、地中、水中いずれのところに住み、変幻自在に体の大きさを変えるとあります。特に中国では龍は9つの動物の特徴を備えた霊獣としており、まず、頭は駱駝に似、角は鹿に似、目は鬼に似、耳は牛に似、うなじは蛇に似、腹はみずち(蚊・蟹)に似、鱗は鯉に似、爪は鷹に似、掌は虎に似とあります。鱗の数は九九、八一の重陽にあたり、類

西暦2000年の平成12年は十二支で辰年にあたります。干支での辰は龍のことで、龍は中国で考え出された想像上の動物とされています。また、ドラゴンは古代エジプト時代や古代ギリシャ・ローマ時代の伝説に見られる想像上の動物とされています。双方に共通しているのは最大、最強の動物で、鱗があり、空を飛び、水や土の中にもぐり、火や水を吐く特徴を持っていることです。

まず、ドラゴンはヨーロッパ、北アフリカ、インドにかけて分布し、足のあるものとなないものがあります。エジプトではワニをモデルとする足のあるドラゴンが、それに対しギリシャ・ローマではヘビをモデルとする足のないドラゴンが言い伝えられています。しかし、インドより東は仏教の影響からか龍に変わっていきます。

と顎にひげ、おとがい(頤・頷)に明珠、喉元に逆鱗、声は銅鑼を打ち鳴らした音とあります。また「南総里見八犬伝」を著した曲亭馬琴によればこの特徴のほか、春は天にすみ、夏は龍雲の上に遊び、秋は水にすみ、冬は土中に眠るとし、水龍は大雨を起こし、好色であるため牛と交われば麒麟を生み、豚と交われば象を生み、雌馬と交われば龍馬を生むと著しています。

中国では龍は麒麟、鳳凰、亀とともに四大霊獣と言われ、吉兆をもたらす万能の霊獣として神聖視され、天子である皇帝は龍と交わって生まれた子で、龍子と呼ばれ、龍顔、龍体を持ち、優れた能力を授けられているとしています。また、各皇帝は龍をシンボルとして旗印や衣服、建物に龍の図柄を広く用いました。

日本では、龍と水の結びつきが強く、龍が大雨を降らし嵐を引き起こす存在として、あるいは水神、海神として漁師や農民に畏怖されたり、また、雨乞いの神として崇められたりしていますが、干ばつの際を別にして、長雨や台風の際には、これ以上暴れず鎮まってほしいと望むときもあります。

その昔、鎌倉時代の高山寺の華嚴縁起の中で、新羅の僧「義湘」が唐に修行に出て、そこで「善妙」という世にも稀な美女と出会います。その女性の援助もあって唐での修行を終え、新羅に帰るとき、善妙が義湘への恋慕断ちがたく、一時の法衣、法具等必要なものを手箱にいれ手渡すつもりが、船が出てしまったため、会うことができず手箱を船に届けと海に流しますが、航海の安全と海を鎮めるため、自分自身も身を投げて大龍に変身し、海を鎮め船を背負って無事に新羅に送り届け、高僧に出世させる物語がありますが、これは龍神が海を平らげ鎮める力があることを示すものです。この反対に万能の霊獣である龍にも弱点や相性の悪いものがあるものです。それはお寺の鐘で、平安時代に伝わったと言われる「安珍清姫伝説・道成寺縁起」では修行僧「安珍」に懸想した「清姫」の恋慕が極まって清姫が大蛇に化身して川を渡り寺まで安珍を追いますが、仏法に仕える安珍は龍の霊力から身を守るため鐘の中に身を隠すという下りがあります。これは鐘に取り付く大蛇を龍と鐘との関わりになぞらえたものと考えられます。その昔、荒れる海や川の洪水を鎮めるために龍の嫌う鐘を沈めるということがあったようです。



龍頭といわれる鐘の吊金具

ちなみに時計に「りゅうず」という部分がありますが、寺の鐘の吊るすところは元もと「龍頭」と言って龍の頭を形どっています。時計も鐘もお互いに時を告げるということから来ているのでしょうか？しかし、鐘の吊るす部分に龍の飾りを使うのは天変地異を起こす龍の霊力に対し、鐘がその力を抑えると言うところからなんでしょうか？このようなことから日本の地名には龍ヶ淵、竜ヶ崎、龍神、龍王、竜飛、九頭竜、天竜、鐘淵、鐘が崎など龍にちなむ名前が各地にみられます。

最後に唯一現存するドラゴンについて一言

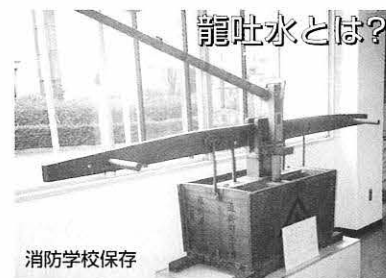
その恐竜ドラゴンは20世紀初頭の1910年に、オランダ人のパイロットがインドネシアのスダ列島・コモド島沖に不時着し、そこで4mもある大きいトカゲを発見し、ジャワ島に戻って報告します。これが伝説に言われている「火を噴くドラゴン」の捕獲作戦に火がつくこととなります。1912年にジャワのブイテンソルグBuitenzorg(今のボゴール)植物園長のP.A.オーエンス少佐が探検家を派遣し、3mから1mまでの4頭の捕獲に成功し、コモド・ドラゴン(コモドの龍)、学名を*Varanus komodoensis*と名付けます。

当初、マレー人の中では水牛を倒す陸のワニがいる、火を吐く7mもの恐竜がいると噂が飛んでいましたが、確認されたなかでは最大で3m余り、体重も170kg程度のものでした。それでも現存のものとしては最大のトカゲと言えます。

このコモドオオトカゲが20世紀初頭まで発見されなかったのは、非常に狭い範囲の、それも島に陸封された形で生存していたこと、また、この地域が交易とか開拓等の影響を余り受けなかったことが幸いしています。これからも、この希少な動物が環境破壊や商取引の犠牲にならず、地球財産として永久に私たちの子孫に残されることを切に祈っています。



復元された首里城宮殿 寺院のシビヤ鱗(しやちほこ)にあたる所に龍を使用



龍吐水とは?

江戸末期〜明治初期に使われ、龍吐水と呼ばれた消防ポンプ

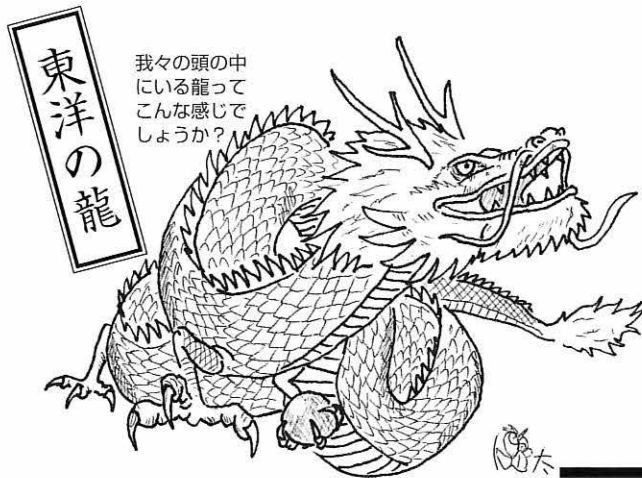
消防学校保存

蛇足ですが龍やドラゴンは口から火や水を噴きますが、それにあやかって江戸、明治初期の古式消防に「龍吐水」という押しポンプの消防機械があります。また、江戸の町火消しが好んで背中に彫った龍の「復梨迦羅紋文」はサンスクリット(梵語)で、クリカラ=龍をさしますが、水神の龍を背負うというところになせや心意気を感じます。



現存するドラゴンのシンボルオオトカゲの撮影

引用文献 1.荒俣 宏「世界大博物図鑑」(平凡社) 2.朝日百科「動物たちの地球/両生類・爬虫類」朝日新聞 3.Van Nostrand Reinhold Grzimek's Animalife Encyclopedia 左ページ下の写真はシンガポール中国寺院の飾り瓦

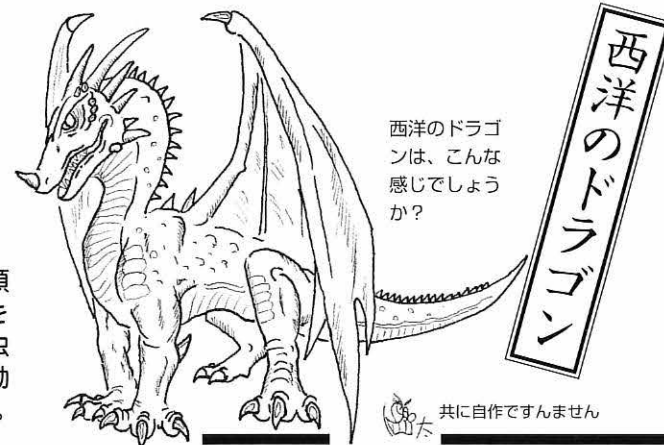


我々の頭の中にいる龍ってこんな感じでしょうか？

龍 DRAGON を探せ!!

飼育課：西村慶太

う～困った。1月号のこのページはいつも干支にちなんだ動物を担当者が紹介するこのコーナー。しかし何だ今年は。龍!? 唯一の空想動物が干支を飾る今年のこのページを何で私が担当してるんだ? 爬(は)虫類担当だからよ



西洋のドラゴンは、こんな感じでしょうか？

共に自作ですんません

視点を変えれば、これほど楽な干支もない。しかし今月号は何だ? 一部をのぞけば表紙から内部原稿まで私一色ではないか。ミレニアムのスタートを飾る2000年1月号が、こんなお気楽モードを進めても良いのだろうか。字数稼ぎも、この辺が限界なので話しをすすめよう。

爬虫類に近い? 架空の動物

龍の起源、出生の歴史についてはめんどくさ...。あ、いや専門外なので前ページにでもまかせておくとして、どうせ飼育係が龍の話をするなら、実際の動物たちと龍との関係、そう龍のモデルになった、あるいは龍を感じさせる動物を探してみよう。てな訳で次ページのカラー写真を見ながら、しばし話しにお付き合い下さい。

まず私の中では龍といっても、「東洋の龍」と「西洋のドラゴン」とでは少しちがう物だと思っている。どちらが兄なのかよく知らないが共に爬虫類のイメージを強く持っていますね。逆に考えれば人々の爬虫類に対する想いがあるのかもしれない。人々はどんな想いで龍を創ったのでしょうか。爬虫類といえば昔から嫌われ者であったり逆に神聖な生物として扱われてきました。龍の存在はどうでしょう。簡単にいえば力の象徴ではないかと思っています。ある映画で全身白い毛で覆われ、犬の出来損ないのような顔をした龍が出てきましたが、あまり龍らしさを感じた人も少なくなかったと思います。やはり3つの首と巨大な翼を持ち全身金色の鱗を纏い破壊の限りを尽くすあれや、ある物を7つ集めると現れ、どんな願いでも叶えてくれるある種の龍のように、万物を支配する力の象徴、あるいは神聖な存在として多くの人々の心に龍がいるのだと思います。未知の部

分が多い不思議な存在、そして我々とは懸け離れたその姿が爬虫類と龍とが共有するイメージなのかも知れません。

龍にしろドラゴンにしろ、やはりベースになっているのはオオトカゲ (P9-写真7) やニシキヘビ (P8-写真6) のような大型の爬虫類ではないでしょうか。個人的にはワニ (P8-写真3) のようなゴツゴツした風貌などもピッタリ来るのですが。しかし昔の人々は、これだけでは物足りなかったのでしょう。私から見れば素晴らしい魅力を持つトカゲやヘビ達もまだ役不足だったようでいろんな動物のパーツを付けられたり形を変えられ、龍への進化を始めました。

西洋のドラゴンVS東洋の龍

龍の顔を想像して頭に浮かぶのが角ではないですか? 龍に限らず鬼や悪魔など力を象徴する物には角が必須アイテムなのでしょう。龍としてはぜひ揃えておきたいところでしょう。私だったらオリジナルの格好良い角を考えるのに、東洋の龍にはシカのような角が、西洋のドラゴンにはカモシカやイッカクのような直線的な角がついています。生まれた土地にいる、角を持つ動物からいただいたのでしょうか。もし周りにカタツムリしかいなければ、どんな龍が生まれたのだろう。確かに怪獣でもロボットでも角があるとかっこいいもんなあ。

「東洋の龍」はヒゲや頭髮というか、たてがみというか、そんなのを持っていますよね。あれは何がモデルになっているのかなあ。個人的には獅子から来てるのかなあとも思ったのですが。あと「西洋のドラゴン」の多くは翼を持っています。ほとんどがコウモリの翼を持っています。やはりどこか魔物的なイメージ

ろしくと言われ、何も考えず引き受けた無頓着な私。でも待てよ、私は爬虫類担当で龍を飼った事なんてないぞ。だいたい、龍が爬虫類なんて誰が決めた? そうだ、どうせ空想動物なら自分の解釈で進めるのもありなわけだ。

があるからでしょうか。鳥や昆虫の翼を持つドラゴンはあまり見たことがないし。私達の間にある龍のイメージはこんな所でしょうか。

どっちがオリジナル?

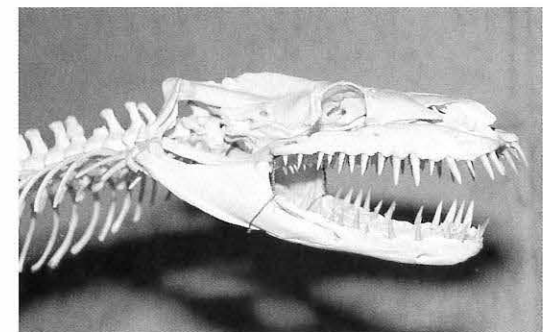
そんな我々の持つイメージから名前を授かった動物も多いのではないのでしょうか。トカゲの仲間でもウォータードラゴンやモリドラゴンなどという名前の物がいますし、世界最大のトカゲであるコモドオオトカゲも英名をKomodo Dragonといいます。当園においても立派なタテガミ状のトゲを持つグリーンイグアナ (P9-写真8) や大きなミズオオトカゲ (P9-写真7) の堂々とした動きを見ると、確かにドラゴンっぽい。しかし奴らが龍に似てるんじゃなく、龍が奴らに似ているのだ。

「東洋の龍」は細長い体に背中トゲと手足を持っている。この龍のイメージ作りにヘビも一役買っていると私は思うのだがどうだろう。このヘビにトゲや手足が付いたら、かっこいいのになあと昔の人が思ったかどうか知らないが、龍から飾りをすべて取っ払えば限りなくヘビに近づかないでしょうか。海に目を向ければタツノオトシゴ (P9-写真5) やそれに近縁なシードラゴン (P9-写真4) の仲間がいます。なるほど、龍によく似た見事な姿。しかし私には奴らの声が聞こえてくる。「こっちがオリジナルや!」。

まあこんな感じで私の勝手な想像で龍を語らせてもらったが、その姿はあくまで自由なのである。動物園で少し視点を変えれば龍のモデルになるようなまた龍によく似た動物を探し出せるかも知れません。何でこんなのが干支の仲間入りをしているのか知らないが12年に一度の龍の年、ミレニアムにふさわしいこの動物を皆

さんの心の中で生みだしてみてもどうでしょうか。

最後に1つ。我々が絶対に逆らえない力の存在、あるいは万物の定めをも支配する神が龍ならば、その存在が我々人間以外の動物にも宿るとしたらどんな龍がいるのだろう。2本足で立ち上がり被毛を捨て、炎を自在に操り、新たな生命を創造し、巨大な鉄の怪物を操り地球環境や気象をも変え、星をも破壊する力を持つ動物の存在が、まさに龍以上の恐るべき生物なのかもしれない。

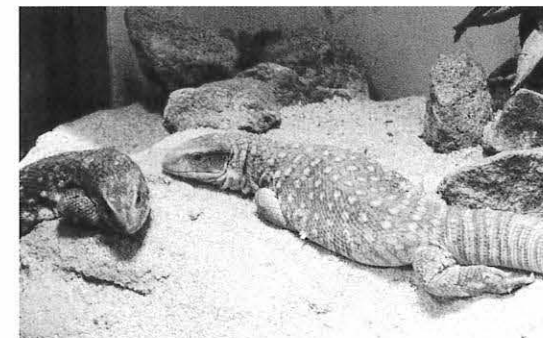


ニシキヘビの頭がい骨

巨大なニシキヘビの頭蓋骨も知らない人が見つけたなら、何に見えるのだろうか

サバンナオオトカゲ

オオトカゲの仲間は姿形や大きさだけでなく、動く姿にもどこか威厳が感じられます



龍 DRAGON を探せ!!

干支特集といっても、実在しない動物
なのだから困ったもんだ。
とりあえず龍やドラゴンを感じさせる動
物を集めてみましたが、みんなはどん
な動物に龍やドラゴンを感じるのかな？
前ページの文とあわせてご覧ください。



飼育課：西村慶太



③ ヨウスコウワニ

普段は水面でじっとしているワニも、こうや
って見ると、かなり龍を感じさせる気もするの
ですがどうでしょう。ほら、顔に角やたてがみ
を付けてみれば…。



④ リーフ・シードラゴン

これは見事。「これが龍の正体だった!!」と
いってしまいそうな神秘的な姿。タツノオトシ
ゴに近い仲間で、海草などに隠れるための姿ら
しいのですが、海中を泳ぐ姿はまさに空を舞う
龍ではないでしょうか。



⑤ オオウミウマ

いわゆる「タツノオトシゴ」の仲間です。辰年
には話題になる魚の一種ですね。海の中では、しっ
ぽで海草などにつかまっている不思議な姿が龍の子
のように見えたのでしょうか。



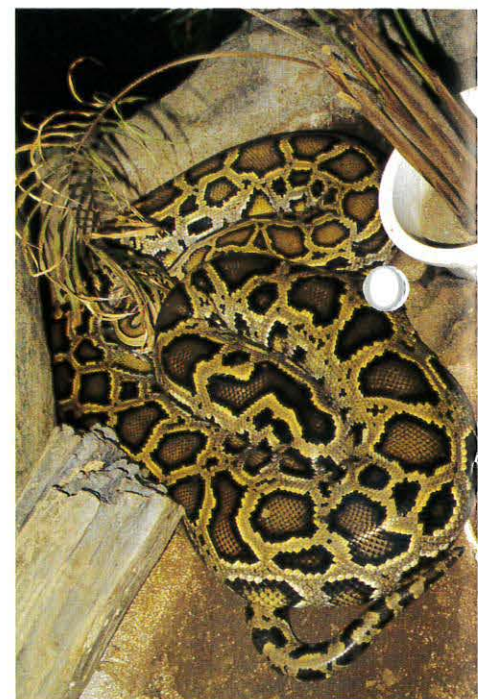
① ダマジカ (白変種)

龍の角は間違いなくシカの角を
いただいたものでしょう。同じ角
でも付く顔が違うと、全然違った
雰囲気になりますね。



② エランド

シカの角が「東洋の龍」なら、カ
モシカの角が「西洋のドラゴン」つ
てところでしょうか。シカの角と
は違った力強い感じもしませんか。



⑥ ビルマニシキヘビ (インドニシキヘビ)

龍とヘビって似ていないようで、案外近いよ
うな気もするのですが…。全長4~5mにもなる
ニシキヘビが木などに登る姿はまさに昇龍!?

⑦ ミズオオトカゲ

大型のオオトカゲの歩く姿はまさにドラゴン
そのもの。きっと昔の人々は「こいつに角や翼
が付いていればカッコいいのになあ」と思った
はず!?



⑧ グリーンイグアナ

大きい物で全長2mにも達
するグリーンイグアナの見事
な姿も、かなりドラゴンっぽ
いかな? 見た目の恐ろしさに
似合わず、草食性のおとなし
いトカゲなのです。



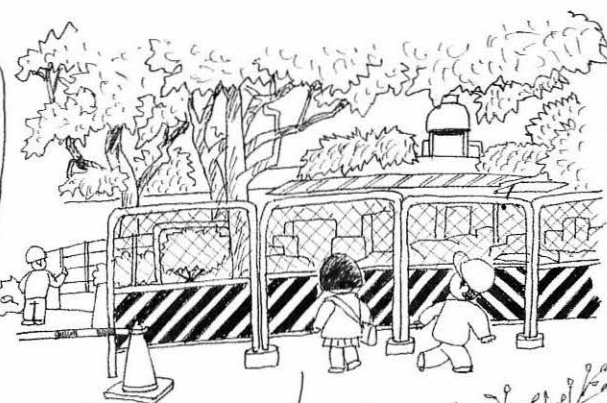
東洋の龍



西洋のドラゴン

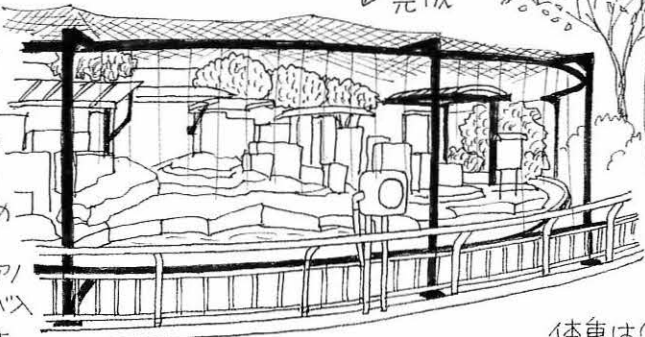
ちかごの好きな動物園 まんが 松葉健

ちかごは、動物園の上空にサギ類やカラスなど、里子鳥がどこからかとんできていっはい居ます。その鳥たちが園内の鳥のエサを横取りして困るので、ペンギン舎にも囲いのフェンスを張る工事がはじまりました。どんな囲いができるのが楽しみです。



屋外のいっも見かける展示場にはペンギンの姿はみえません。工事中、裏の屋内展示室に入ってフェンスの出来るまで待っていました。

暮れの12月9日に、外の囲いが完成したのでペンギンを、また屋外へ出すことになりました。天井はミドリ色の網目で囲ってありますが、周囲はピアノ線が囲っているため、展示場はよく見えます。ピアノ線でも野鳥が入り込むのはムリです。



夏からいた屋内展示室から屋外へ出すとき健康診断をします。一羽ずつ体重と足の爪を計ります。係の人が7、8人が手伝っていました。

爪を切ってサッパリしたところで、屋外の展示場へ出させる



ペンギンの足はいがいに大きく爪もよく伸びました。両手をペタペタするとすごい力があるそうです。

体重はペンギンに言えます(おとこの体重を引く)



やっぱり屋外の空気はうまいとみえ、外へ放されたペンギンたちは深呼吸吸えもするようにのびやかな力で空をあおいでいます。現在、フンボルトペンギン、オウサマペンギン、イワトビペンギン、マカロペンギンの計26羽が同居しています。

- 11/3 ●「秋の動物と花のフェスティバル99」の最終日で、トラの企画展、動物相談、ステージショーなど様々なイベントが催されました。
- 11/6 ●当園飼育係による動物園のおじさんのお話「ゾウさんの一日」を開催しました。
- 11/7 ●大阪市美術研究所のご協力により、小学生高学年を対象とした「動物絵画教室」を開催しました。

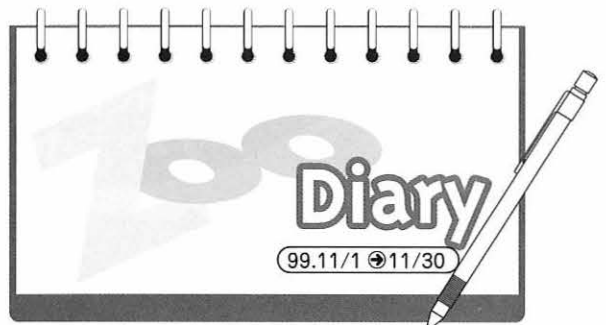


小学生高学年を対象とした「動物絵画教室」を開催しました。

- 11/11 ●クロサイのオスが1頭生まれました。新しいサイ舎に引っ越してはじめての出産でした。



- ヒョウモンガメのオス1頭を愛媛県立とべ動物園へ贈りました。
- 11/13 ●当園飼育係による動物園のおじさんのお話「サイさんの一日」を開催しました。
- 11/14 ●当園園長が動物を解説する「天王寺動物園長のお話～動物不思議発見～」を開催しました。
- 11/15 ●チンパンジーのアップル(メス)の定期健康診断を行いました。
- 11/20 ●クロツルのメスが1羽死亡しました。このクロツルは昭和47年に来園して以来、27年間当園ですごしました。



- 11/20 ●当園飼育係による動物園のおじさんのお話「どうぶつくんたちのエサ」を開催しました。
- 11/22 ●チンパンジーのリッキー(オス)の定期健康診断を行いました。
- 11/25 ●10月に来園したオオタカ(メス)の検疫が終了したため、展示しました。
- 11/27 ●当園飼育係による動物園のおじさんのお話「爬虫類生態館のウラ・オモテ」を開催しました。
- 11/29 ●アカカンガルーのオス、メス各1頭が愛媛県立とべ動物園から贈られました。



●チンパンジーのプテリ(メス)と、レックス(オス)の定期健康診断を行いました。

お知らせ

●動物のお話

内容・日時	2月 5日(土)	動物ビデオ放映
	12日(土)	チンパンジー君の一日
	19日(土)	動物ビデオ放映
	20日(日)	動物園長のお話
	26日(土)	ゾウさんの一日

場 所 天王寺動物園内レクチャールーム
参加方法 会場に来られた方、先着60名 いずれも午後1時30分から



愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店



子どものずかんシリーズ

① どうぶつえん

26.5×21cm 各巻定価 本体1,000円(税別)
全国学校図書館協議会選定

動物園にはいろんな動物を見ることができます。ただ、単に見るだけではなく、その動物の特長や生態、何を食べているか、またその仲間たちはどんなものがあるかがこの本でわかります。さあ、この本を持ってもう一度動物園へいってみよう。

お求めは、お近くの書店で。

ひかりのくに株式会社 本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2 TEL.06-6768-1151代表



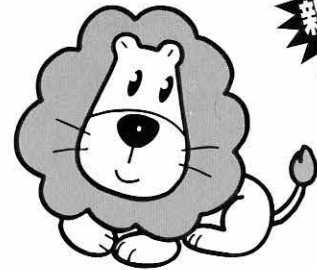
マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

〒561-0856 大阪府豊中市穂積1-10-30
(株)増田食品 TEL (06)6865-0165

FUJIFILM
I&I-Imaging & Information



新発売

楽しいショットを
3つのサイズで。

ADVANCED
PHOTO SYSTEM



FUJICOLOR スーパー
スリム
APSフィルム使用

切替

撮影シーンに合わせて、
標準・ハイビジョン・パノラマのサイズを自由に切替。

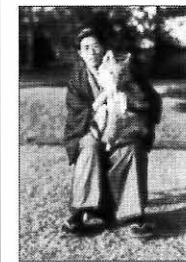
- スーパースリムの手軽さにプリントサイズ選びの楽しさプラス。
- APSフィルムだからインデックスプリントも。
- 切替はファインダーも連動、見たままのフレームでパチリ。

かろうの大林

桜橋本店 ☎6341-8091
阪急三番街店 ☎6372-5031

狼と生きて

父 平岩米吉の思い出



平岩由伎子[編著] ●新刊
3,500円+税 ●限定1000部
狼と犬と猫の生態を研究し、動物文学をはじめて世に紹介した平岩米吉の波瀾に富んだ創造性豊かな生涯を娘の眼から深く描く。
夏の旅の思い出、ふしぎな巡りあわせ、動物画家・大崎善司、日本好きのスター博士など、名品を掲載。

平岩米吉の本

狼 その生態と歴史
2,600円+税

犬と狼

●2刷出来 2,500円+税

犬の生態

●6刷 2,000円+税

犬の行動と心理

●4刷 2,000円+税

私の犬

2,200円+税

猫の歴史と奇話

2,200円+税

動物文学 復刻版 [全10巻+補巻・索引]

174,757円+税 ●限定300部(分売不可)

南方熊楠、柳田国男、小川未明……錚々たる執筆陣が数々の作品・論考を寄稿し発表した幻の戦時中資料。

築地書館 〒104-0045 東京都中央区築地7-4-4-201 TEL03-3542-3731 FAX03-3541-5799 (発送料一律400円)
●ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。E-mail Address= JDH07647@niftyserve.or.jp

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



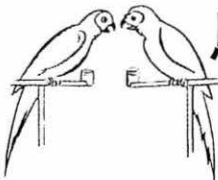
オールカラー

500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)6771-0201



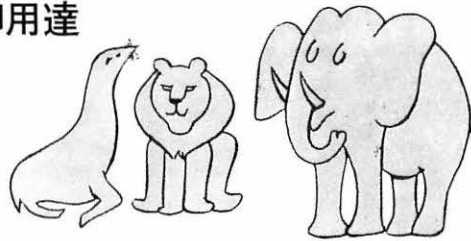
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
 KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. (コカ・コーラ指定会社)
 Coca-ColaとCokeはThe Coca-Cola Companyの登録商標です



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

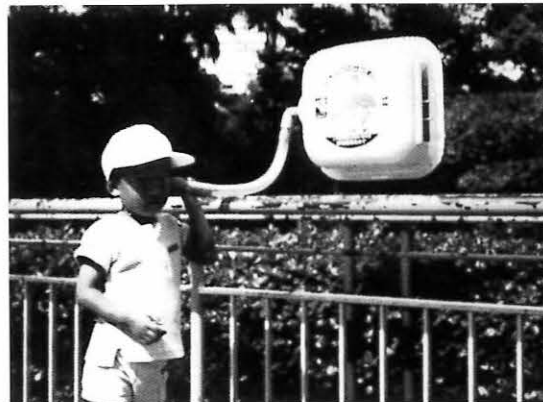


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
 飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
 30数カ所にあります

関西特機株式会社
 電話06-6762-2333
 1回 30円

動物園内での
 お食事、
 ご休憩は



動物園内.....

中央売店

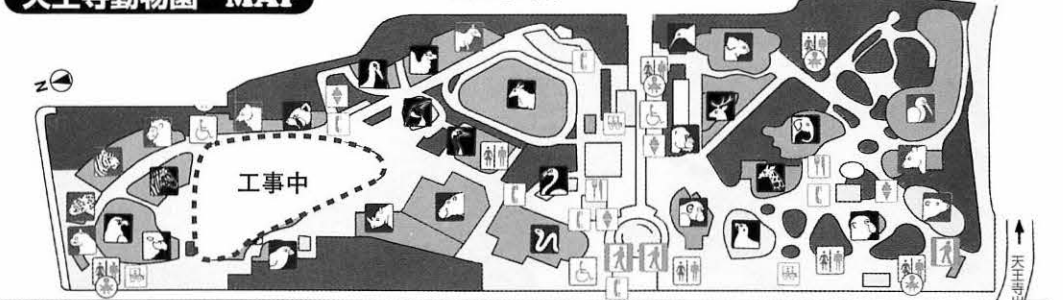
TEL06-6771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL06-6771-7110



天王寺動物園 MAP

天王寺公園



阪神高速松原線

動物園入口

- 入園料** 動物園/大人500円 公園/大人150円 中学生以下、65歳以上無料
- 開園時間** 午前9時30分～午後5時(入園は4時まで)
- 休園日** 毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は翌日休園)

大阪市天王寺動植物公園事務所 〒543-0063大阪市天王寺区茶白山町1-108 TEL.06-6771-8401

365日、毎日毎日骨太に。



牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、
1本で1日分のカルシウム。



カルシウムを摂るなら牛乳や乳製品が理想的。それは、牛乳のカルシウムは、とても体に吸収されやすいからです。この牛乳のカルシウム吸収のよさはそのままだ、カルシウムの量を600mg (成人1日あたりの所要量) までアップさせた、雪印毎日骨太。日本人に不足しがちなカルシウムを、効率よく補給するために、ぜひ毎日お召し上がりください。



雪印毎日骨太

300ml・100円/希望小売価格(税別)



一日、愉快地のしめる

◎園内2カ所 (中央デッキ下・南園高架下) に、各種のりものがあります。



ほんとに楽しいネ!



中央デッキ下



南園高架下

久竹娯楽株式会社
TEL (06) 4397-0100 (代)

編集委員

中尾啓一/中川哲男/石井 等/藤田四郎/沖田紀行/山崎道正/長瀬健二郎/谷森 進/長澤英資/森本委利/高橋雅之/市川久雄
竹田正人/高見一利/瀧 勇二/松岡秀和/萩原祐二/坂本 全/森岡伸晃/野口秀高/大野尊信/早川 篤/西村慶太/油家謙二